

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年6月25日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・0歳児「カタツムリ、ミミズを見てみよう」

<テーマ設定理由>

初回の「花」から、動きのある物への関心があることを感じたので、「虫」をテーマに選んだ。

2. 活動スケジュール

保育室内に制作シートを敷き、虫を観察しやすいよう平らなケースに虫を入れ用意した。目の前で動く虫を見て喜んだり、興味を持って触ろうとする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・段ボール箱を浅く平らに切った虫を入れるケース。
- ・ケースを置くための制作シート。

4. 探究活動の実践

<活動内容>

虫を入れたケースを保育室内に置き、子ども達がケースの周りに集まり虫を見たり、触ろうと手を伸ばした。



<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

子A：シートの上に置かれたケースに入ったミミズに自ら近づく
 B：座った状態のまま顔を向け見ている。
 C：自ら近づき手を伸ばし触れようとする。
 A：手を伸ばし触れようとする。手に触れた後、自分の掌を見る。指先でつまもうとする。
 D：立ち歩いて近寄る。立ったまま眺めている。
 A：繰り返し手を伸ばして、手で触れた後は手を振る。
 D：何かがあることに気づいた。ミミズの動きを目で追い、笑顔になる。ミミズを指差す。
 B：立ち上がり数歩後ずさりし、離れたところから指差して見つめる。ミミズが動いていることが分かり眺めたまま笑顔になる。腰をかがめ顔を近づける。
 D：指差すが、触れようとはしない。
 一方のカタツムリには手を伸ばし、触れようとする。
 B：カタツムリにはしゃがみ込み、顔を近づける。
 立ち上がり、指差し、声を出して笑う。
 D：手を伸ばしてケースを遠避けようとする。
 A：保育者がケースの場所を動かすと、追いかけていく。
 B：ミミズがいる場所に自ら動いて両手をついて眺める。少しだけ手を伸ばす。見つめながら笑いだす。保育者の「いたね」「動いてるね」の言葉に応じて笑顔になる。ミミズが動いているのに合わせて笑い顔、笑い声を出し保育者を見る。何度も手を伸ばそうとする。そのたび笑い声を発する。
 今度はカタツムリの方に体を向けて指差して笑う。すぐにミミズの方に向きを変える。
 C：手を出してカタツムリに触れようとする。
 A：カタツムリに手を伸ばして殻を手取る。保育者に見せる。両手で持ち、見ている。指先で触れる。何度か指先で触れ、殻の穴に指を入れる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・「これなんだろうね」というところから遊びが始まった。動きに気付いて指をさしたり、虫との微妙な距離を保ちつつ、ちょっとずつ近づいてきた。
- ・「ニョロニョロ」と言葉を掛けることで、ニョロニョロするものと植えてしまうことはどうなのか。
- ・握って興味を持っているが、衛生的に触れることを止めていた0歳児の難しさを感じた。
- ・興味津々で指を差したり、よく見ていた。担任が子ども達の気になるものを読み取っていた。
- ・触らせてあげたいが、やり方としてケースに入れて動きを見ることを楽しんでよかった。
- ・葉っぱや土に関心を持つ子どももおり、興味を様々な目線で楽しむ年齢である。
- ・自然は触るだけでなく、見るだけでも良い。
- ・本来は園庭遊びの中で虫に気づき、興味を持った場面からすくわくへと取り組みたかった。
- ・虫ケースから出して、より身近に虫を感じてもらいたいと思った。季節の虫で動きのゆっくりなものがよいと選んだが、衛生上触ることを制限するのなら、選択する虫を考慮しなければいけなかった。